【逆向き設計】単元構想図（全６時間）　　第２学年　『平家物語』

単元の学習課題　当時の民衆に『平家物語』が受け入れられたのはなぜか考えよう。

本単元で育成すべき資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
古典の文章を繰り返し音読することでその独特のリズムに気付き，五音，七音のリズムの特徴などについて理解することを通して古典の世界に親しむこと。	複数の場面を相互に結びつけたり，各場面と登場人物の言動、情景等の描写とを結びつけたりすることによって，場面や描写に新たな意味付けを行うこと。	自分の解釈の根拠を考えたり，他の読み手の解釈と比較したりすることで，文章を深く理解したり作品が持つ魅力に迫ること。

【単元のねらい】登場人物の言動に着目し，古典に表れたものの見方や考え方を知ること。

【目標】現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して，古典に表れたものの見方や考え方を知り，場面ごとに考えた複数の情報を整理しながら，登場人物の言動の意味などについて考えたりして，『平家物語』の魅力をまとめることができる。

単元のまとめ

これまで学習した内容を踏まえて，当時の民衆に『平家物語』が受け入れられたのはなぜか考えることができる。

『平家物語』は七五調に近い調子で書かれていたり，「よっぴいてひやうど放つ」「ひいふつとぞ射切つたる」などの印象的な擬音語などが使われて，独特のリズム感を持っていることが分かった。それを琵琶法師が語るという，聞いていることのおもしろさが人々を惹きつけて語り継がれたのだと考えた。知

「扇の的」では与一は自分の実力では実現できないかもしれないと思ったことも，命令に従い平家に恥が及ばぬよう自分の命をかけてまで挑戦し見事成功させ，「弓流し」では義経は自分の命が危険にさらされるにも関わらず，自分たちが使っている弓を敵が見下すことを恐れて名誉を守ろうとしていたことが分かった。自分の命よりも名誉を重んじる武士の生き方を感じ取った。思

独特の調子を持つ『平家物語』は，琵琶法師の語り（平曲）により人々に伝えられた。聞き手は武士社会の人間味溢れる人物の姿に共感し，一方で武士として命よりも名誉を重んじる生き方に興味を惹かれていった。人々にとっての一つの娯楽として広まり，現代にも通じる「無常観」を感じて『平家物語』は広く長く語り継がれていったのではないかと考えた。学

第６時 単元のまとめ②　～当時の民衆に『平家物語』が受け入れられたのはなぜか～

前時での交流した『平家物語』の魅力をふまえ，受け入れられた理由を自分の言葉で説明する。思 学

第５時 単元のまとめ①　～『平家物語』の魅力を統合的に捉える～【本時】

ここまでの授業を通して，『平家物語』の魅力をまとめ，他者との交流を通して自分の考えをより広げたり深めたりする。思 学

第４時 弓流し　～義経の光と影を捉える～

「弓流し」に描かれている義経の思いを読み取り，武士の生き方（命よりも名誉を重んじること）を捉え，それらが描かれた意味を考える。知 思

第３時 扇の的　～与一のスター性を捉える～

「扇の的」に描かれている内容を読み取り，与一の心の揺れを捉えた上で，与一の「かっこよさ」を挙げる。知 思

第２時 冒頭部分　～「無常観」を通して，「家（平家・源氏）」意識を持つ～

冒頭部分を読み，描かれている「無常観」に触れ，範読や音読を通して古典のリズムに慣れる。知 思

第１時 単元の導入　～琵琶法師の見事な語り～

身近な曲の「いいね」を分析し，人々が興味ひかれる理由をまとめ，『平家物語』における琵琶法師の存在の意義を考える。知 学

【単元の入り口】生徒の姿

生徒は，これまで「竹取物語」や「枕草子」と通して古文を学び，「盆土産」や「字のない葉書」と通して，登場人物の言動に注目し，人物像を読み取る学習をしてきた。